横田基地の新しい教会部長

New Wing Chaplain

October 24, 2016

Original text by Airman 1st Class Donald Hudson
374th Airlift Wing Public Affairs

横田基地の教会にて
第374空輸航空団教会部長
アンドリュー・ソーンリー少佐（従軍牧師）

ソーンリー少佐は、18歳までをサウスカロライナ州にあるチャーレストン北部の小さな町で過ごした。彼自身の人生の始まりは、憲兵隊員として米軍に入隊した時からだったと振り返る。

「空軍での最初の4年が、今の自分を作ってくれた。そう、まさに今ある私自身を」と、横田基地第374空輸航空団教会部長のアンドリュー・ソーンリー少佐は語る。

彼は、コロラド州コロラドスプリングスにある空軍士官学校の憲兵隊員として赴任中、人生を変える境遇に直面した。家族や友人から離れ、聖書だけを持って、身一つで過ごすことは彼にとって人生初めてのことだった。

「家族や友人の力を借りずに、自分が信じる道を試しながら勇気を持って冒険していかなくてはならなかった。その間、神が教えを説き、私を導いてくれた」

若い空兵だった彼は、心の支えとなる人を見つけることに苦労した。その苦労はやがて、彼が他の人々を導く光（先導者）になりたいという夢に変わっていった。

兵役期間を終えた後、彼は神学の勉強を始め、民間の牧師になった。牧師を10年ほど務めた頃、新しく習得した知識をもっと活かせる場があるかもしれないと考えるようになった。

聖職をより追求できる道を模索し始めた頃、陸軍予備兵で軍牧師をしていた友人の一人が、従軍牧師になることを考えてみてはどうかと彼に話した。

「空軍から一時離れても、完全に私の体から離れたわけではなかった。私には（空軍カラーの）青い血が巡り続けていた」と少佐は話す。

再び空軍のユニフォームを着られたことは彼にとって喜びだった。軍のコミュニティーの人々との再会も嬉しかった。彼は難なく現役に復帰できた。2001年10月に米空軍教会部の将校として任官し、初の任務地はニュージャージー州マグワイア・ディックス・レイクハースト統合基地だった。

イラク戦争が始まった数ヵ月後の2003年4月、ソーンリー少佐は任務のため、デラウェア州のドーバー空軍基地死体安置部チャーレス・C・カーソン・センターへ赴いた。彼はその地で、彼の専門分野の重要性を再認識した。

「実に衝撃的だった。私達の任務は、死者の永遠の安息を神に願うこと。男女が、国のため、人々のために、命の犠牲を払って横たわっている」「戦争での出来事を数々目にしてきたトラウマの中でも、私が最も震撼させられたのは、別室でシーツの上に並べられている兵隊たちの所持品だった。彼らのブーツや財布の中に入っていたその本人と家族、愛する人の写真を目にした時の心境は、永久的に胸に刻まれた」

従軍牧師の仕事は、無情で悲痛な日もあれば、奮い立って軍の教会の重要性を顕示する日もある。

「自己を犠牲にし、他人のために尽くすこのコミュニティーにいることが、光栄であり特権であるということを、今日この頃、改めて心に刻んでいる」とソーンリー少佐は語る。

牧師たちは、軍人たちの日々の生活に寄り添い、個人の率直な声を聞くことで、軍のコミュニティーに働きかけることができる。

「私はコミュニティーの一部であり、皆んなが私の家族だ」とソーンリー少佐は言う。

ソーンリー少佐は、横田基地教会部の部長に就任する前、米空軍の新兵募集センターで、牧師の副部長として4年間、米空軍牧師の採用に務め、またトラビス空軍基地で教会の副部長を務めた。

航空団の牧師は、その基地のリーダーとなる牧師で、他の牧師や神父たちが聖職の仕事に集中できる環境をつくる務めがある。

牧師は、軍の中で宗教の自由を促進する一方で、「包括的な空兵の健康」の精神的な部分の強化も図る。精神的な部分は、身体、メンタル、社会の後に位置づけされることが多いが、これは精神的な部分が重要ではないという意味ではない。「精神が最後に置かれるのは、強調する意味合いがあるのだと思う。誰もがスピリチュアルな側面を持っている。それに目を向けなかったら、何かの形で歪が生じる」とソーンリー少佐は言う。

ソーンリー少佐は、長年安定して牧師を務めてこられたのは、仲間の牧師の助けによるものと振り返る。そして、彼を精神的に最も支えたのは、彼にとっての一番の友であり親友である妻のレイ・ソーンリー夫人だと語った。「彼女は多くの素晴らしいアドバイスをくれた。このチームで最高の人」と、ソーンリー少佐は述べた。

ソーンリー少佐は、空兵たちが人々に愛され、いかに大切な存在かを認識してもらえるように務め、この横田基地で足跡を残したいとこれからの期待を語る。

そして「あなたもご存知のはず。あなたが記憶しているほど、人々はそれを覚えていない。けれど、彼らはあなたから受けた感情は覚えているものだ」と言葉を締めくくった。

（英文：9月27日発行）